

東北6県全体で 会員活動を強化

一般社団法人日本建築構造技術者協会（略称JSCA）東北支部（平山浩史支部長）は、東北6県の構造設計者である正会員約200人などで構成されているが、宮城県内の会員が多く、活動が県内中心になっていた。そのため、19年度は県外での活動を増やし、一般会員や学生会員の獲得に注力する。平山支部長に取り組みを聞いた。



（一社）日本建築構造
技術者協会東北支部
支部長

平山 浩史氏

ひらやま・ひろし 1962年生まれ。東京都出身。芝浦工業大学大学院建設工学専攻修了。87年大成建設㈱入社。2015年同社東北支店設計部部長就任。19年6月日本建築構造技術者協会（JSCA）東北支部長就任。一級建築士。

Interview

——2019年6月にJSCA東北支部の支部長に就任しました。

平山 15年6月、JSCA東北支部の副支部長に就任させていただきましたが、17年に前支部長から支部長職を交代してほしいという話がありましたので、心構えはありました。前支部長は10年務めていただきましたので、2期4年は務めなければと考えています。

——JSCA東北支部を取り巻く現状や課題は。

平山 JSCA東北支部は東北6県の会員によって構成されていますが、正会員の総数約200人のうち、92人が宮城県です。どうしても活動が宮城県内に偏っていました。18年度の活動実績を見ると、各委員会の実施回数は76回ですが、支部総会の際の幹事会以外は仙台市内での開催でした。また、講演会、講習会、見学会は計30回行いましたが、支部総会の記念講演会以外は全て仙台市

または仙台市近郊での開催でした。宮城県以外での活動が少ないとJSCAの認知度が低下し、会員が集まりません。結果、会員収入が増えず、活動資金が少ないため宮城県でのみ活動するという「負のスパイラル」が生じているのではないかと考えています。会員のうち正会員は、一級建築士またはそれと同等以上の知識、能力が必要なため、簡単に増やすことは困難ですが、入会しやすい一般会員は6人、建築構造を専攻している学生または大学院生で構成される学生会員は2人だけです。認知度向上が大きな課題です。

——課題への対策、取り組むべきことは。

平山 19年度は、多少支出をし、この「負のスパイラル」を断ち切ることに大事だと考えています。活動資金を投入し、宮城県外での活動を行い、JSCAの認知度向上、会員増、収入増、活動資金増という「正のスパイラル」に変えていかなければいけません。そのためには、幹事会を筆頭に各委員会と県ブロック代表との連絡を密にし、幹事会や委員会の議事録の送付、各県ブロックからの要望なども議題として取り入れることや、宮城県以外でどのような活動が可能か協議する必要があります。

——今後の抱負は。

平山 JSCA東北支部の19、20年度のスローガンは「東北6県での活動の場を広げよう」です。新たに設置した「技術伝承委員会」の皆さま方のお力もお借りして、JSCA東北支部を社会的にさらに認知していただけるよう、社会に向けた活動をこれまで以上に活性化したいと思います。



牛たん焼きを
仙台名物にしたお店

味の牛たん
きすけ
助